



2025年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年3月27日

上場会社名 フィードフォースグループ株式会社 上場取引所 東
コード番号 7068 URL <https://www.feedforcegroup.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田 耕司
問合せ先責任者 (役職名) グループ執行役員グループ担当 (氏名) 西山 真吾 TEL 03 (6732) 5488
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年5月期第3四半期の連結業績（2024年6月1日～2025年2月28日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年5月期第3四半期	3,213	2.6	1,275	22.9	1,130	27.6	1,071	26.0	707	150.8
2024年5月期第3四半期	3,130	7.9	1,037	18.8	885	28.8	850	25.2	282	238.6

(注) 包括利益 2025年5月期第3四半期 707百万円 (151.1%) 2024年5月期第3四半期 281百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年5月期第3四半期	27.88	27.55
2024年5月期第3四半期	10.84	10.66

(注) 1. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額 (販売費及び一般管理費)

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年5月期第3四半期	7,136	3,016	40.8
2024年5月期	7,559	2,889	36.9

(参考) 自己資本 2025年5月期第3四半期 2,914百万円 2024年5月期 2,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年5月期	—	5.00	—	—	—
2025年5月期（予想）	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年5月期の連結業績予想（2024年6月1日～2025年5月31日）

（%表示は、対前期増減率）

通期	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	4,580	8.3	2,014	39.3	1,800	45.5	1,781	52.7	1,172	147.6	45.90

- （注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額（販売費及び一般管理費）

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年5月期3Q	25,024,958株	2024年5月期	25,768,658株
② 期末自己株式数	2025年5月期3Q	一株	2024年5月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年5月期3Q	25,372,121株	2024年5月期3Q	26,028,216株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料につきましては、TDnet及び当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループの主要な事業領域である国内インターネット広告市場の2024年の市場規模は、社会のデジタル化を背景に堅調に伸長し、前年比9.6%増の3.6兆円と過去最高を更新しました。総広告費における構成比は47.6%を占め、広告市場全体の成長をけん引しております（出典：株式会社電通「2024年日本の広告費」）。また消費者向け電子商取引（BtoC-EC）市場は、経済産業省による2023年の調査「令和5年度デジタル取引環境整備事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」によると、国内のBtoC-EC市場の市場規模は前年比で2.1兆円、9.2%増の24.8兆円と引き続き拡大しています。物販系分野のBtoC-EC市場規模については、2023年において、伸長率は鈍化したものの前年比4.8%増の14.6兆円となり拡大傾向が継続しております。また、EC化率（全ての商取引市場規模に対する電子商取引市場規模の割合）が前年比0.3ポイント増の9.4%となるなど、BtoC-EC市場は依然として着実な成長を続けております。

当社グループは「『働く』を豊かにする。～B2B領域でイノベーションを起こし続ける～」をミッションに掲げ、「プロフェッショナルサービス事業」、「SaaS事業」、「DX事業」の3セグメントにおいて事業を展開しております。セグメント間のシナジー効果を発揮する組織体制は当社グループの最大の強みであり、それに加えて、収益性・安定性・成長性において異なる特性を有しているため、利益を拡大しつつ成長投資を推進してまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、プロフェッショナルサービス事業における安定的な運用体制の構築、SaaS事業における機能開発及び「Micro ATS」などの新サービスのリリースを行い、継続して成長を維持するための組織基盤の構築を行ってまいりました。また第三の柱となるDX事業においては、ポストCookieや生成AIなど今後のデジタルマーケティング環境で必須となるサービスの新規事業の開発を推進し、Shopifyアプリなどの新サービスのリリースを行ってまいりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は、下表のとおりとなりました。

<連結業績>

（単位：百万円）

	2024年5月期 第3四半期 (累計)	2025年5月期 第3四半期 (累計)	増減額	増減率 (%)
売上高	3,130	3,213	82	2.6
EBITDA	1,037	1,275	238	22.9
営業利益	885	1,130	244	27.6
経常利益	850	1,071	221	26.0
親会社株主に帰属する四半期純利益	282	707	425	150.8

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額（販売費及び一般管理費）

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント区分について>

セグメント名	所属サービス、所属カンパニー	詳細
プロフェッショナルサービス事業	「Anagrams」アナグラム(株) 「DF PLUS」(株)フィードフォース	デジタルマーケティングサービス (広告マーケティング支援、インターネット広告運用代行、データフィード構築運用)
SaaS事業	「ソーシャルPLUS」(株)ソーシャルPLUS 「CRM PLUS on LINE」(株)ソーシャルPLUS 「dfplus.io」(株)フィードフォース 「EC Booster」(株)フィードフォース	サブスクリプション型ツール提供サービス (ソーシャルログイン・メッセージ配信ツール、データフィード管理ツール、Googleへの商品掲載・広告運用自動化ツール)
DX事業	「Omni Hub」(株)フィードフォース 「どこбой」(株)リワイア 「App Unity Xross ID&IDP」(株)リワイア 「Shippinno」シッピーノ(株) 「FRACTA」(株)フラクタ	EC事業支援サービス (Shopifyアプリ開発、EC構築支援サービス、IDソリューション、ECの出荷・受注業務自動化ツール、ブランド戦略設計)

<セグメント別業績>

(単位：百万円)

		2024年5月期 第3四半期 (累計)	2025年5月期 第3四半期 (累計)	増減額	増減率 (%)
プロフェッショナル サービス事業	売上高	1,789	1,906	117	6.6
	営業損益	782	780	△1	△0.2
SaaS事業	売上高	819	938	118	14.4
	営業損益	344	360	15	4.5
DX事業	売上高	521	368	△152	△29.3
	営業損益	△240	△10	230	—
合計	売上高	3,130	3,213	82	2.6
	営業損益	885	1,130	244	27.6

<プロフェッショナルサービス事業>

プロフェッショナルサービス事業では、エンタープライズを中心とした企業に対し、運用型広告代行及びデータフィードマーケティング等のデジタルマーケティング支援を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、既存顧客の売上拡大及び新規顧客の獲得に注力した結果、前第3四半期連結累計期間と比較し、増収減益となりました。

<SaaS事業>

SaaS事業では、エンタープライズからSMBまで幅広い企業に対し、セルフサービスで高度なマーケティングが実施できるツールとして、データフィード管理やソーシャルログインシステム等をSaaSにより提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、主にLINEメッセージ配信サービスやShopifyアプリ「CRM PLUS on LINE」の需要が高く、順調に推移した結果、前第3四半期連結累計期間と比較し、増収増益となりました。

<DX事業>

DX事業では、主にEC事業者を対象としてShopifyによるサイト構築やShopifyアプリ、IDソリューションなどの開発・提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、「どこポイ」をはじめとしたShopifyアプリやIDソリューション（「App Unity Xross ID」及び「App Unity IDP」）による収益の増加が順調に推移した一方、株式会社フラクタの事業再構築を行った結果、前第3四半期連結累計期間と比較し、減収損失減少となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は7,136百万円となり、前連結会計年度末に比べ422百万円減少いたしました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産合計は、5,837百万円となり、前連結会計年度末に比べ360百万円減少いたしました。これは主に、前渡金が459百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産合計は、1,299百万円となり、前連結会計年度末に比べ62百万円減少いたしました。これは主にのれんが35百万円及び顧客関連資産が82百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債合計は、2,949百万円となり、前連結会計年度末に比べ547百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が1,133百万円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が1,170百万円、買掛金が298百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債合計は、1,170百万円となり、前連結会計年度末に比べ2百万円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が2百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,016百万円となり、前連結会計年度末に比べ126百万円増加いたしました。これは主に資本剰余金が479百万円減少した一方、利益剰余金が580百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年6月27日付「2024年5月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,522	3,561
売掛金	1,575	1,793
前渡金	892	433
その他	221	62
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	6,198	5,837
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	42	38
その他（純額）	29	33
有形固定資産合計	72	71
無形固定資産		
のれん	263	227
顧客関連資産	610	528
その他	0	9
無形固定資産合計	874	765
投資その他の資産		
投資有価証券	105	105
繰延税金資産	143	192
その他	166	163
投資その他の資産合計	414	461
固定資産合計	1,361	1,299
資産合計	7,559	7,136
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,684	1,386
短期借入金	66	1,200
1年内返済予定の長期借入金	1,170	—
未払法人税等	301	144
賞与引当金	73	35
その他	199	182
流動負債合計	3,496	2,949
固定負債		
長期借入金	1,000	1,000
繰延税金負債	172	170
固定負債合計	1,172	1,170
負債合計	4,669	4,120
純資産の部		
株主資本		
資本金	37	58
資本剰余金	1,052	572
利益剰余金	1,705	2,286
株主資本合計	2,795	2,917
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3	△3
その他の包括利益累計額合計	△3	△3
新株予約権	96	101
非支配株主持分	0	0
純資産合計	2,889	3,016
負債純資産合計	7,559	7,136

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)
売上高	3,130	3,213
売上原価	1,059	928
売上総利益	2,071	2,284
販売費及び一般管理費	1,185	1,154
営業利益	885	1,130
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	0	0
助成金収入	—	0
投資事業組合運用益	1	—
その他	4	0
営業外収益合計	6	3
営業外費用		
支払利息	10	17
支払手数料	2	22
持分法による投資損失	28	22
その他	0	0
営業外費用合計	41	62
経常利益	850	1,071
特別利益		
投資有価証券売却益	86	—
資産除去債務戻入益	44	—
固定資産受贈益	32	—
新株予約権戻入益	9	8
その他	0	—
特別利益合計	172	8
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	290	—
その他	0	0
特別損失合計	290	0
税金等調整前四半期純利益	732	1,078
法人税、住民税及び事業税	407	423
法人税等調整額	43	△51
法人税等合計	450	371
四半期純利益	281	707
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	282	707

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2023年6月1日 至 2024年2月29日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2024年6月1日 至 2025年2月28日）
四半期純利益	281	707
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	281	707
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	282	707
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2024年6月27日開催の取締役会において、会社法第165条の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、自己株式436,000株の取得を行いました。この結果、第1四半期連結会計期間において、自己株式が299百万円増加しました。

当社は、2024年12月26日開催の取締役会において、会社法第165条の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、自己株式424,000株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間において、自己株式が200百万円増加しました。

(自己株式の消却)

当社は、2024年6月27日開催の取締役会において、会社法第178条に基づく自己株式の消却をすることを決議し、自己株式436,000株の消却を行いました。この結果、第1四半期連結会計期間において、資本剰余金が299百万円、自己株式が299百万円それぞれ減少しました。

当社は、2024年12月26日開催の取締役会において、会社法第178条に基づく自己株式の消却をすることを決議し、自己株式424,000株の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間において、資本剰余金が200百万円、自己株式が200百万円それぞれ減少しました。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、当第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月1日 至 2024年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)
減価償却費	102百万円	110百万円
のれんの償却額	49	35

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2023年6月1日 至 2024年2月29日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッ ショナルサー ビス事業	SaaS事業	DX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,789	819	521	3,130	-	3,130
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	32	0	33	△33	-
計	1,789	852	521	3,164	△33	3,130
セグメント利益又は損失 (△)	782	344	△240	885	-	885

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失（△）の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「DX事業」において、株式会社フラクタに関連するのれんについて、将来の事業計画を見直した結果、当初計画していた収益が見込めなくなったと判断したため、第2四半期連結会計期間にのれんの未償却残高290百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2024年6月1日 至 2025年2月28日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッ ショナルサー ビス事業	SaaS事業	DX事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,906	938	368	3,213	-	3,213
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	13	9	23	△23	-
計	1,906	951	378	3,236	△23	3,213
セグメント利益又は損失 (△)	780	360	△10	1,130	-	1,130

(注) 1. セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失（△）の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

（当社が保有する投資有価証券の特別支配株主からの株式売渡請求）

当社が保有していた投資有価証券（株式会社ハックルベリー株式）35万株（発行済株式総数の8.8%）について、株式会社ハックルベリー（以下、「同社」という。）の代表取締役である特別支配株主から株式売渡請求があり、同社はこれを承認し、特別支配株主が売渡株式を2025年3月17日に1株につき42円で取得する旨の通知を、当社は2025年2月20日に受領しております。

これにより、2025年3月17日において当該株式の売渡しが成立しておりますが、当社は当該売渡しの対価が公正な価格ではないと判断しており、2025年3月12日に東京地方裁判所に対して株式売買価格決定の申立てを行っております。

以上により、通知があった売渡し対価を基礎とする投資有価証券売却損90百万円が特別損失として発生するものの、売買価格が決定された時点で、別途損益が計上されることとなるため、本取引に関する最終的な損益は確定しておりません。